

泥だんご遊び ～2学期～

2024.12 星組

1学期から始まっていた泥だんごを作る遊びは、2学期になってからも続いていました。新しいふるいを購入してもらい、泥だんご作りの勢いが加速していきます。

光る泥だんごの作り方を確認中



ふるいを使って作った泥だんご



帰りの会で、夢中になっている遊びを発表する場を設けました。

今作っている光る泥だんごの発表をしました。友達の発表を聞いて“それ楽しそう！”と思った子が、一緒に光る泥だんご作りを始めたり、1学期に光る泥だんごを作ろうと思っていたが、壊れてしまい諦めてしまった子も再び泥だんご作りをする姿が見られるようになりました。



それと同時に、泥だんごを作る為に粘り気の強い土を集めるチームも出来始めました。

作っていた泥だんごがしっかりと乾燥したので、ピカピカに光らせる為に、磨きの作業をしました。
 保育室に、泥だんごの作り方絵本がもう一冊発見され、どちらが見やすいかを実際に読みながら進めていきました。
 以前からある絵本の方が、作り方が分かりやすく、そちらの絵本を中心にしながら続きを作っていました。



「今日は磨きます」と乾燥した泥だんごをこすると、ポロポロと削れていき、途中で「絵本には書いてないけど、ちょっと水を足した方がいいかも」と水を用意し、タオルで磨く作業をした。少し湿った泥だんごは、土の性質上キラキラと光る箇所も出てきて、土も少しずつ黒光りしてきていました。

白砂を途中でかけながらやると、光っている箇所が多くなったように見え、「白砂もやりながらだといいんだ」と気付いて繰り返していました。

泥だんごを磨いていると、近くでいい土を作っていた友達が、「石が見える」と気づき、そこでふるいを使うことにしました。白砂をふるいにかけて、「こっちの砂はサラサラしてて、振ってない土はジャリジャリする」と砂の違いにも気付いていたようでした。ふるいのめの大きさの違いにも気づき、細かい網目の方が石が入りにくいことに気付いていました。



泥だんごで使いそうな粘り気の強い土を作る様子



少し光始めた泥だんご



左がただの白砂
 右がふるいにかけて白砂



白砂をふるいにかけてことで、土の性質の違いに気付いた子ども達が「白砂だけではなく、粘り気の強い土もふるいにかけてみようよ!」と言っていたので、粘り気の強い土もふるいにかけることにしました。



ふわふわになった!!
と土の変化に気が付いています。



ふるいをすることでふわふわになった土で泥だんごを作ると、石も無くなり、とてもきれいな表面の泥だんごができ、子ども達自身も「触るの気持ちがいい」と言っていました。



泥だんごを作って、乾燥させ、白砂を掛けながら磨きと光る泥だんごを作っていると、乾燥しすぎて割れてしまったり、泥だんごを丸める段階で触りすぎて水分がなくなり壊れてしまったり、一歩進んでは立ち止まり…振り出しに戻ったり、根気がある遊びだと思いました。

泥だんご遊びをしていると、他学年の子も興味を持って話しかけてくれたり、一緒に作る様子がありました。



そこで、他学年にも粘り気の強い土がどこにあるか分かる方法ないか、子ども達に聞いてみると「ここがいい土だよって言葉で教えてあげるのはどう？」 「それだと他のクラスみんなに教えてあげられないかも」

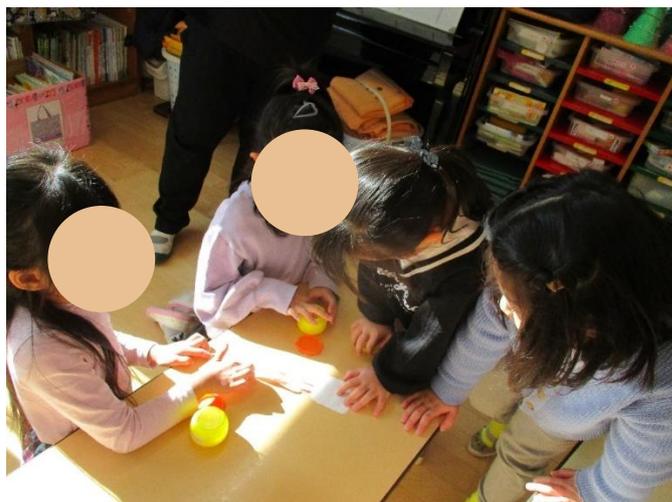
「絵を描いてここだよって教えてあげる」等の意見が出てきた。すると「ここにはこれがありますよって地図を作るのはどう？」という意見が出てきて、他の子も賛同し園庭の地図（MAP）を描いて、お知らせをすることにしました。

なんの遊具が園庭にあるか、その遊具はどこにあるか、それぞれが描きたい物を選び、チームで絵を描き、模造紙に貼りました。



クライミングは10本もある！！

園庭を見ながら遊具を描く様子





出来上がった園庭の地図を見せて、「いい土のある場所はどうやって教える？」と聞くと「矢印を描いてここですって知らせる？」「写真をはるのは？」といくつか案が出てきて、写真を貼った方が見やすい！となり、いい土がある場所の写真を貼ることになりました。



保育室内や廊下に園庭の地図を貼り出すと、月組に「これなに？」と聞かれ、嬉しそうに「ここにいい土があるから、泥だんごを作るときにここにあるの使って」というやり取りをする姿も見られました。



自分達で作った“いい土地図”と泥だんご作りの様子を保育中に見ている子が多くいました。紙で自分達のしている遊びを貼り出しているからなのか、いい土を集めて遊んでいた子も泥だんごを作るように変わってきました。また、今まで泥だんご作りに興味があまりなかった子も興味を示し、夢中になって遊ぶ様子が見られました。

光る泥だんご作りは、何度作っても理想のようにピカピカには光りませんが、今あるもので目標に近づく為に、崩れても繰り返し作り、友達に言葉でアドバイスを送ったり、励ましたりと根気が必要と再確認しました。

自分達の遊んでいる事を他学年に知らせる方法をみんなで考えたり、一つのテーマをどう進めていくか、子ども達なりに考え、意見交換をして固めていきました。3学期も思いを言葉で伝え、相手の思いに気づき、自分達で活動を進めていけるよう、保育者は伝えきれなかったその子の思いを読み取り、援助していきたいと思います。

新たに、粘り気の強い土を発見？

砂場に落とし穴を作って遊んでいたグループが「下の方かたくなってきた」と保育者に知らせにきました。砂場に掘られた穴をよく見ると、土の色が濃いことに気が付きました。すると、「あれ！ここにもいい土があるのかもしれない」といい、掘り進めていくとすぐに薄い色の土に変わり、少しがっかりした様子でした。

いい土(粘り気の強い土)かもしれないというものすごい勢いで掘り始め、「あの地図にかけるかも」とわくわくしているようでした。子ども達にとって今は“いい土”がお宝のようです。

